

科目 文学国語

單位數： 2 單位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（『文学国語』筑摩書房）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】文学的作品や評論文を読むにあたってこの国語の知識や技能を身に付け、他者や社会に興味関心を持つ。

【思考力、判断力、表現力等】「書くこと」「読むこと」を通して、共感したり想像したり、また論理的に考える力を伸ばしていく。

【学びに向かう力、人間性等】言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、国際社会に関わろうとする態度を養う。

科目 文学国語

の目標：

[illegible]

科目 古典探求(古文)

单位数： 3 单位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（『古典探究』大修館書店

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたり必要な国語の知識や技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】考察力・共感力・想像力を伸ばし、自らの思いを他者に的確に発信する能力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】国際的視野をもち、自国文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探求(古文)

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたり必要な国語・古典の知識や技能を身につけるとともに、我が国の古典を主体的に読み、理解を深めることができるようにする。受験に対応する力。	古典作品において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。受験に対応する力。	古典がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって我が国の文化の担い手である教養人として、言葉を通して他者や国際社会に関わろうとする態度を養う。

[illegible]

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 国語 科目 漢文探究

教科：国語

科 目： 漢文探究

单位数： 2 单位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（『精選古典探究（漢文編）』東京書籍

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたり必要な国語の知識や技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】考察力・共感力・想像力を伸ばし、自らの思いを他者に的確に発信する能力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】国際的視野をもち、自国文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

科目 漢文探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたり必要な国語・古典の知識や技能を身につけるとともに、我が国の古典を主体的に読み、理解を深めることができるようにする。受験に対応する力を養う。	古典作品において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。受験に対応する力を養う。	古典がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって我が国の文化の担い手である教養人として、言葉を通して他者や国際社会に関わろうとする態度を養う。

[illegible]

科目 発展国語

單位數： 2 單位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（『現代の国語』筑摩書房

教科 国語

の目標：

【知 識 及 び 技 能】文学的作品や評論文を読むにあたってこの国語の知識や技能を身に付け、他者や社会に興味関心を持つ。

【思考力、判断力、表現力等】「書くこと」「読むこと」を通して、共感したり想像したり、また論理的に考える力を伸ばしていく。

【学びに向かう力、人間性等】言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、国際社会に関わろうとする態度を養う。

科目 発展国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
文学的的作品や評論文を読むにあたっての国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対して興味関心を持ち、理解を深めることができる。受験に対応する力を養う。	文学的的作品や評論文を読むにあたって、深く共感したり豊かに想像したりする力や論理的に考える力をつけ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。受験に対応する力を養う。	言葉が持つ価値への認識を深める。生涯にわたって読書に親しむ姿勢をもち、我が国の文化の担い手として、言葉を通して他者や社会に関わりとうとする態度を身につける。

[illegible]

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史演習Ⅰ

教科：地理歴史

科目：世界史演習Ⅰ

単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 A組～ C組

使用教科書：（世界史探究（東京書籍））

教科 地理歴史

の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 世界史演習Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史に関する理解を深め、諸資料から歴史に関する情報を読み取り、活用する能力を身につける。	歴史に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えて、諸課題を考察する歴史的思考力を培う。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に貢献できる資質と能力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
1 学期	○16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家にはどのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	【知識・技能】 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	27
	定期テスト			○	○		1
	○18世紀半ばから19世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	国民国家と近代社会の形成	【知識・技能】 ・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・大西洋沿岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「国民国家と近代社会の形成」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	27
	定期テスト			○	○		1
2 学期	○産業革命で先行したイギリスが19世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。	世界市場の形成とアジア諸国の変容	【知識・技能】 ・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	31
	定期テスト			○	○		1

2 学 期	○アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	【知識・技能】 ・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	31
	定期テスト			○	○		1
3 学 期	○第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。	第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	【知識・技能】 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	36
							合計 156

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史演習Ⅱ

教科： 地理歴史 科目： 世界史演習Ⅱ 単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（世界史探究（東京書籍））

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 世界史演習Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史に関する理解を深め、諸資料から歴史に関する情報を読み取り、活用する能力を身につける。	歴史に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉えて、諸課題を考察する歴史的思考力を培う。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に貢献できる資質と能力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	○世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によって引き起こされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	【知識・技能】 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「国際協調体制の動揺と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	○第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。	第二次世界大戦と戦後の東アジア	【知識・技能】 ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「第二次世界大戦と戦後の東アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
2 学期	○冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。	冷戦の世界化と国際制度	【知識・技能】 ・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16

[illegible]

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目 日本史演習Ⅰ

教科：地理歴史 科目：日本史演習Ⅰ 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 B組 C組

使用教科書：（詳説 日本史 日本史探究（山川出版社））

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 日本史演習Ⅰ の目標：

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】					
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連と現在とのつながりなどに着目して、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
単元の具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	感	配 時 数
1 学 期	【知識及び技能】 ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・原始・古代の日本と東アジアについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷		【知識及び技能】 ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・原始・古代の日本と東アジアについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。		○	○	○	25
	定期考査					○	○		1
	【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 中世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1 藤原政治 2 国郡文化 3 地方政治の展開と武士 第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権		【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 中世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。		○	○	○	29
	定期考査					○	○		1
2 学 期	【知識及び技能】 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 公家関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主権を否定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の面影などを根拠を示して表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 中世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル来襲と幕府の素直 4 鎌倉文化 第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の素直と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 第8章 近世の幕開け 1 徳川文化 2 桃山文化		【知識及び技能】 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 公家関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主権を否定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の面影などを根拠を示して表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 中世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。		○	○	○	29
	定期考査					○	○		1
	【知識及び技能】 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関する情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 近世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	第9章 幕府体制の成立と展開 1 幕府体制の成立 2 幕府社会の構造 3 幕府の素直 4 経済の発展 5 元禄文化 第10章 幕府体制の動揺 1 幕府の改革 2 天明・天保期の文化 3 幕府の素直と近代への道 4 文化文芸		【知識及び技能】 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関する情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 近世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。		○	○	○	33
	定期考査					○	○		1
3 学 期	【知識及び技能】 ・各時代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関する情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 各時代の地域、日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。	歴史資料と各時代の歴史 大学入試問題演習		【知識及び技能】 ・各時代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関する情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 各時代の地域、日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。		○	○	○	35
	定期考査					○	○		1
合計						○	○		1
									166

高等学校 令和6年度（3学年用）教科

地理歴史

科目 日本史演習Ⅱ

教科：地理歴史

科目：日本史演習Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 B 組～ C 組

使用教科書：（詳説 日本史 日本史探究（山川出版社））

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 日本史演習Ⅱ の目標：

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	【知識及び技能】 戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 戦後の諸改革について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。	第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	【知識及び技能】 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 連合国の対日占領政策について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返り、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	【知識及び技能】 国内政治について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけて、その結果を表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習している。	○	○	○	14
	定期考査				○	○	
2 学期	【知識及び技能】 幕府体制の仕組みを理解し、なぜ徳川幕府が長期政権となったのかを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 幕府社会の構造に関して、当時の身分制度を基盤に社会階層を対比し、多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 国内外の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	幕府体制の確立 ・幕府体制の成立 ・幕府社会の構造 幕府体制の展開 ・幕府の安定	【知識及び技能】 幕府体制の仕組みを理解し、なぜ徳川幕府が長期政権となったのかを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 幕府社会の構造に関して、当時の身分制度を基盤に社会階層を対比し、考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 幕府が安定していく中で、どのような改革が行われ、功を著していったのかを多面的にとらえ、分析することができる。また、国内外の動向を客観的に捉え、多角的に検証することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 諸資料から情報を読み取り、幕府体制の動向について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 幕府の改革の特徴と内容を多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 近代に至る国内外の変化や経済・社会等の課題を主体的に追究しようとしている。	・経済の発展 幕府体制の動向 ・幕府の改革 ・幕府の衰退と近代への道	【知識及び技能】 諸資料から情報を読み取り、幕府体制の動向について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 幕府の改革の特徴と内容を多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 近代に至る国内外の変化や経済・社会等の課題を主体的に検証することができる。	○	○	○	15
	定期考査				○	○	
3 学期	総合的な演習	総合的な演習	大学共通テストに対応した問題演習を通して、多面的・多角的な考察をし、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究することができる。また、多面的・多角的な考察や深い理解ができる。	○	○	○	18
合計							78

合計
156

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目 地理特講

教科：地理歴史

科目：地理特講

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（新詳地理探究（帝国書院））

教科 地理歴史

の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域の特徴と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察し、社会課題の解決に向けて構想し、表現、議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 地理特講

の目標：

	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】				
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図をはじめとする諸資料を用いて、地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、地理に関する理解を深め、活用する能力を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。				
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準 ①＝知・技、②＝思・判・表、③＝主	知	思	態	配当 時数
1 学期	第3章 交通・通信と観光・貿易 ①. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や交通・通信・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ③. 交通・通信・観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	交通・通信 観光と経済圏	①. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や交通・通信・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②. 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③. 交通・通信・観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	第2章 現代世界の諸地域（前半） ①. いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解すること。 ②. いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域への結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解すること。 ③. 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し表現すること。 ④. 現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	中国 韓国 ASEAN諸国 インド 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南アフリカ	①. いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。 ②. いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域への結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。 ③. 現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し表現している。 ④. 現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	第2章 現代世界の諸地域（後半） 前半と同じ	EU諸国 ロシア アメリカ合衆国 ラテンアメリカ オセアニア	前半と同じ				
	第3部第1章 持続可能な国土像の探究 ①. 現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国の抱える地理的な諸課題の解決の方向性や、将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解すること。 ②. 現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して主題を設定し、我が国の抱える地理的な諸課題の解決の方向性や、将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し表現すること。 ③. 持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	将来の国土の在り方 持続可能な日本の国土像の探究	①. 現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国の抱える地理的な諸課題の解決の方向性や、将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 ②. 現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して主題を設定し、我が国の抱える地理的な諸課題の解決の方向性や、将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し表現している。 ③. 持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	総合的な演習	総合的な演習	①②③大入試問題に対応した多様な問題演習を通して、現代世界の諸事象を、資料を活用しながら多面的に理解することができる。	○	○	○	15
3 学期	定期考査			○	○	○	1
	2学期後半と同じ	総合的な演習	2学期後半と同じ	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	0
							合計 78

高等学校 令和6年度（3学年用）教科 公民

科目 政治・経済

教科：公民

科目：政治・経済

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～C組

使用教科書：（詳述 政治・経済（実教出版））

教科 公民

の目標：

【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 政治・経済

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 現代日本の政治 【知識及び技能】 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	(1) 民主政治の基本原則 (2) 日本国憲法の基本的性格	【知識・技能】 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係について、現実社会の諸事象を通して理解している。 【思考・判断・表現】 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	B 現代日本の政治 【知識及び技能】 議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	(3) 日本の政治機構 (4) 現代日本の政治	【知識・技能】 議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解している。 【思考・判断・表現】 政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
2 学 期	C 現代日本の経済 【知識及び技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。また、市場経済の限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	(1) 経済社会の変容 (2) 現代経済のしくみ (3) 現代経済と福祉の向上	【知識・技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解している。 【思考・判断・表現】 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。また、市場経済の限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	D グローバル化する国際社会の諸課題 【知識及び技能】 国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、国際貢献、国際経済におけるしくみ、国際協調の必要性について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	(1) 現代の国際政治 (2) 現代の国際経済 (3) 国際社会の諸課題の探究	【知識・技能】 国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、国際貢献、国際経済におけるしくみ、国際協調の必要性について、現実社会の諸事象を通して理解している。 【思考・判断・表現】 国際社会において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	総合的な演習	総合的な演習	大学共通テストに対応した問題演習を通して、現実社会の諸課題を、資料を活用しながら多面的・多角的に理解することができる。	○	○	○	18
	定期考査						0
							合計 78

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 数学科 科目 数学Ⅲ

教科：数学科 科目：数学Ⅲ 単位数：4 単位
対象学年組：第3学年 A組～ C組

使用教科書：（数研出版 数学Ⅲ）

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】

科目 数学Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
極限 多項式関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の関数値の極限を求めることができるようにする。また、関連して関数の連続性について理解できるようにする。	1 関数の極限 2 三角関数と極限 3 関数の連続性	【知識・技能】 ○関数の極限に関する用語・記号を正しく理解し、 $x \rightarrow a$ や $x \rightarrow \infty$ 、 $x \rightarrow -\infty$ のときの関数の極限を求めることができる。 ○不定形を解消するように関数の式を変形することにより、関数の極限を調べることができる。 ○関数の右側極限、左側極限を調べ、関数の極限の有無について調べられる。 ○指数関数、対数関数の極限が求められる。 ○簡単な三角関数の極限を求めることができる。 ○ $\sin x/x$ の極限が利用できるように関数の式を変形することにより、三角関数を含む関数の極限を求めることができる。 ○定義に基づいて、関数の連続性、不連続性を判定することができる。 ○閉区間で連続な関数が最大値、最小値をもつことを理解している。 【思考・判断・表現】 ○関数の極限について、数列の極限における考え方との類似点と相違点を理解している。 ○関数の極限について、グラフなどで直観的に考察できる。 ○極限値をもつ関数の係数決定に関しては、等式を成り立たせるための必要条件を求め、その十分性をチェックすることで関数の式の係数を決定することができることを理解している。 ○関数の極限が簡単に求められない場合に、関数の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて、極限が求められる。 ○三角関数の極限を応用して、図形的な問題を考察することができる。 ○中間値の定理が成り立つための条件を正しく理解し、解の存在の証明に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○関数の極限を、グラフなどで直観的に考察しようとする。 ○三角関数が現れる図形的な問題を、三角関数の極限を利用して考察しようとする。 ○連続でない関数があることに興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとする。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1
微分法 多項式関数だけでなく、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解できるようにする。	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 関数のいろいろな表し方と導関数	【知識・技能】 ○微分係数の定義と、その図形的意味を理解している。 ○微分可能性と連続性の関係を理解し、連続ではあるが微分可能でないことを示せる。 ○導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分できる。 ○導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を利用し				

で、種々の導関数を求めることができる。

○三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、三角関数、対数関数、指数関数を含む種々の関数の導関数を求めることができる。

○ a が実数のとき、 $(x^a)' = ax^{a-1}$ が成立することを理解している。

○対数微分法を利用して、複雑な関数を微分できる。

○第 n 次導関数の定義とその表現方法を理解し、種々の関数の第 n 次関数が求められる。

○方程式 $P(x, y)=0$ を関数とみて、合成関数の導関数を利用して微分できる。

○曲線の媒介変数表示を理解し、媒介変数で表された関数の導関数が求められる。

【思考・判断・表現】

○微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察できる。

○導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。

○導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の微分法、逆関数の微分法を定義に基づいて証明できる。

○三角関数、対数関数、指数関数を含む関数を合成関数とみて、合成関数の微分法を利用することができる。

○自然対数の底 e を考える必然性を理解している。

○第2次導関数、第3次導関数を求めることで、一般の第 n 次導関数を予想し、求めることができる。

○方程式 $P(x, y)=0$ を陰関数とみる考え方を理解している。

○1つの曲線がいろいろな式で表されることを理解し、その導関数について考察することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

○微分係数の図形的意味を考察しようとする。

○微分可能性と連続性の関係について、興味、関心をもつ。

○さまざまな導関数の性質や公式に興味をもち、定義に基づいて証明しようとする。

○ $(x^a)' = ax^{a-1}$ において、 a の範囲を自然数、整数、有理数と拡張していく考え方に興味をもち、考察しようとする。

○関数の極限としての値 e （自然対数の底）について興味をもち、考察しようとする。

○ a が実数のとき $(x^a)' = ax^{a-1}$ が成り立つことの証明に対数微分法が利用できることに興味をもち、考察しようとする。

○陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について、その簡便さを理解し、積極的に利用しようとする。

○

○

○

28

定期考査

○

○

1

微分法の応用 さまざまな関数について、接線の方程式を求めたり、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりできるようにするとともに、関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決する力を養う。 微分法の有用性を認識できるよう、微分法を速度・加速度などの考察に活用できるようにする。	1. 接線と法線 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数の最大と最小 5. 関数のグラフ 6. 方程式、不等式への応用 7. 速度と加速度 8. 近似式	【知識・技能】 ○微分係数の意味を理解しており、接線の方程式が求められる。 ○公式を利用して、法線の方程式が求められる。 ○$F(x, y)=0$で表された曲線の接線の方程式を、陰関数の微分法を利用して求められる。 ○平均値の定理と、その図形的意味を理解し、具体的にcの値を求めることができる。 ○導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減や極値が調べられる。 ○$f(x)$が$x=a$で微分不可能な場合にも、増減表から$f(a)$が極値になるかどうかを判定できる。 ○関数の極値に関する条件から、関数を決定することができる。 ○導関数を利用して増減表をかくことができ、関数の最大値・最小値が求められる。 ○曲線の凹凸の定義を理解し、第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。また変曲点が求められる。 ○導関数、第2次導関数を利用して、増減、凹凸、変曲点、漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができる。 ○第2次導関数を利用して、増減表をかかなくても極値が求められる。 ○導関数を利用して、不等式の証明問題、方程式の実数解の個数問題を解くことができる。 ○ベクトルの成分を微分することによって、速度ベクトル、加速度ベクトルが求められることを理解し、実際に求めることができる。 ○等速円運動、角速度の定義を理解し、等速円運動をしている点の速度、加速度の関係が調べられる。 ○微分係数の意味を考えることで、関数の近似式を考察できる。 ○関数の1次の近似式を作ることができる。 【思考・判断・表現】 ○接線に直交する条件と、直線の方程式の公式から、法線の方程式の公式を考えることができる。 ○曲線外の定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて、接線の方程式を求めることができる。 ○共通な接線をもつ条件を理解し、問題の解決に利用できる。 ○平均値の定理を利用して、不等式を証明できる。 ○平均値の定理を利用して導関数の符号と関数の増減の関係を証明する方法を理解している。 ○$f'(a)=0$は、$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ○関数の極値に関する条件から関数を決定する際に、必要十分条件に注意している。 ○最大・最小の応用問題で、変数のとり方、定義域に注意している。 ○関数の定義されていないところや、$x \rightarrow \pm\infty$のときの状態を調べて、関数のグラフをかくことができる。 ○不等式を、関数の値に関する条件式に読み替えて考察できる。 ○方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸に平行な直線との共有点の個数に読み替えて考察できる。 ○導関数の意味から、点の位置を表す関数の導関数が点の速度、第2次導関数が点の加速度を表すことを理解できる。 ○速度、加速度を調べることで、等速円運動やサイクロイド運動の特徴を考察できる。 ○関数の近似式を活用して、数の近似値を求めることができる。	○	○	○	31
定期考査			○	○		1

3 学 期	総合問題演習		○既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【知識・技能】 ○問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【思考・判断・表現】 ○問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	31
	定期考査			○	○		1
	総合問題演習		○既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【知識・技能】 ○問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【思考・判断・表現】 ○問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	36
							合計 156

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 数学科 科目 数学Cα

教科：数学科 科目：数学Cα 単位数：3 単位
対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（数研出版 数学C ）

教科 数学科 の目標：

- 【知識及び技能】 平面上の曲線と積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫
【思考力、判断力、表現力等】 について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに
【学びに向かう力、人間性等】 に、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学Cα の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
平面上の曲線と積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
式と曲線 ○幾何学的な定義に基づいて導き出された2次曲線の方程式とその概形について考察し、2次曲線の基本的な性質を理解できるようにするとともに、解析幾何学的方法についての理解を深める。 ○曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を理解できるようにし、それらを具体的な事象の考察に活用する力を養う。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ○放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ○放物線の方程式から、焦点、準線が求められる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある放物線の方程式を理解している。 ○楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○楕円の方程式から、焦点などが求められる。また、条件から楕円の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある楕円の方程式を理解している。 ○双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○双曲線の方程式から、頂点、焦点、漸近線が求められる。また、条件から双曲線の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある双曲線の方程式を理解している。 ○曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は、曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。 ○ x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を求めることができる。 ○2次曲線と直線の交点や弦の中点を2次方程式の実数解を利用して求められる。 ○2次曲線の接線の方程式を、2次方程式の解（重解）を利用して求められる。 ○2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。 ○楕円や双曲線の方程式を、離心率 e をもとに求められる。 ○曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 ○放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求められる。 ○2次曲線や円を、媒介変数を用いて表すことができる。 ○媒介変数表示の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求められる。 ○極座標で表された点の位置を表示できる。 ○点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○円や直線を極方程式で表すことができる。 ○曲線の方程式について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○2次曲線を、離心率 e を用いて極方程式で表すことができる。 ○いろいろな曲線をコンピュータで描画し、その性質を考察できる。 【思考・判断・表現】 ○軌跡の考え方を利用して、放物線の方程式を導くことができる。 ○2次関数のグラフとしての放物線と2次曲線としての放物線を関連付けてとらえられる。				

		○放物線の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察することができる。⁷ ○軌跡の考え方を利用して、楕円の方程式を導くことができる。 ○楕円の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察ができる。¹ ○軌跡の考え方を利用して、双曲線の方程式を導くことができる。 ○双曲線の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察ができる。 ○2次曲線を、円錐を平面で切った切り口の曲線として捉えられる。 ○複雑な方程式で表された2次曲線を、平行移動を利用して考察することができる。 ○2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察することができる。 ○放物線の接線や焦点の性質について、式を使って考察することができる。 ○放物線、楕円、双曲線を離心率eと1との大小関係で統一的に取り扱うことができる。 ○媒介変数表示の曲線の平行移動を一般的に取り扱うことができる。 ○x, yについての方程式では表しにくい曲線を、媒介変数表示を用いて考察することができる。 ○曲線を極座標を用いて表すと簡潔に表せ、その性質の考察が容易になることがあることに気づく。 ○2次曲線の極座標表示を、離心率eを用いて統一的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。 ○条件を満たす軌跡について、条件を変えたときに軌跡がどのように変わるか検討しようとする。 ○2次曲線が円錐と平面との交線であることに興味、関心をもち、考察しようとする。 ○直角双曲線$xy=1$に関心をもち、考察しようとする。 ○2次曲線と直線の位置関係について、2次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。 ○2次曲線の焦点の性質に関心をもち、考察しようとする。 ○2次曲線（楕円、放物線、双曲線）の焦点の性質について進んで考察しようとする。 ○2次曲線が定点と定直線との距離の比の関係で定められることに関心を示し、それについて考察しようとする。 ○曲線の方程式の媒介変数表示に興味、関心をもち、媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。 ○サイクロイドなど媒介変数表示でないと表しにくい曲線を進んで考察しようとする。 ○平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味、関心をもつ。 ○2次曲線を極方程式で表すと、離心率を用いて簡潔に表されることに興味、関心をもち、考察しようとする。 ○媒介変数表示や極方程式で表された曲線をコンピュータで描き、それらを考察することに興味、関心をもつ。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1
積分法 ○積分法の基本的な性質や置換積分法及び部分積分法について理解できるようにする。また、微分法の公式からいろいろな関数の不定積分の公式を導き、不定積分を求めることができるようにする。 ○いろいろな関数の定積分が求められるようにする。また、定積分と和の極限の関係を理解し、いろいろな問題に活用できるようにする。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ○不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ○不定積分の定義や基本性質を理解し、それを利用して、種々の関数の不定積分が求められる。 ○置換積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の不定積分が求められる。 ○部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の不定積分が求められる。 ○分式を部分分数に分解する方法を理解している。 ○定積分の定義や性質を理解し、それを利用する種々の関数の定積分の計算方法を理解し				

		ている。 ○定積分の置換積分法では、積分区間の変換に注意して定積分を計算できる。 ○偶関数、奇関数の定積分の性質を理解し、それを利用して定積分を計算できる。 ○定積分の部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。 ○上端、下端に変数xを含む定積分を、xで微分することができる。 ○上端、下端がともに定数である定積分を含む関数を、定積分を定数とおくことで求められる。 ○数列の和を長方形の面積の和として捉え、その極限を、適当な関数の定積分で表して求められる。 ○関数の大小とその関数の定積分の大小との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ○不定積分の基本性質が利用できるよう、式を適切に変形することができる。 ○合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解している。 ○積の微分の逆演算として、部分積分法を理解している。 ○被積分関数を適切に変形することで、不定積分を求めることができる。 ○絶対値を含む関数の定積分を、積分区間を分けて求めることができる。 ○$\sqrt{a^2-x^2}$の定積分を、円の面積と関連付けて考察できる。円の面積の公式は、定積分を利用して初めて数学的にきちんと証明されたことになることを理解している。 ○$\sin x$の定積分に部分積分法を用いて漸化式を導き、考察することができる。 ○$e^x \sin x$, $e^x \cos x$の定積分をそれぞれI, Jとおいて求める方法を知り、考察することができる。 ○上端がxである定積分を、xの関数とみることができる。 ○曲線で囲まれた部分の面積を、微小な長方形の面積の和の極限として捉えられる。 ○不等式に現れる式の図形的意味を長方形の面積と結び付けて捉え考えることで、定積分を利用した不等式の証明について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ○簡単に不定積分の計算ができないとき、変数の置換をどのようにすればよいかを考え、置換積分法を利用しようとする。 ○簡単に不定積分の計算ができないとき、被積分関数の特徴を見て部分積分法を利用しようとする。 ○三角関数の積を和や積に変形する公式に興味をもち、自ら証明しようとする。 ○簡単に定積分が求められない関数について、置換積分法を用いて計算しようとする。 ○簡単に定積分が求められない関数について、部分積分法を用いて計算しようとする。 ○曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形の和で近似する積分の基本的な考え方に興味、関心をもつ。 ○不定積分が求められない関数があることや、微分積分学の基本定理に興味をもち、調べようとする。	○	○	○	30
定期考査			○	○		1
積分法の応用 ○積分法の有用性を認識し、図形の面積や立体の体積を求めることなどに活用できるようにする。		【知識・技能】 ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求められる。 ○$F(x, y)=0$で表される曲線で囲まれた図形の面積を求められる。 ○媒介変数表示された曲線や直線で囲まれた部分の面積を、置換積分法を利用して求めることができる。 ○立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 ○回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積が求められる。 ○媒介変数表示された曲線を回転させてできる立体の体積を、置換積分の考えで求めることができる。 ○定積分を用いて、曲線の長さを求めることができる。 ○数直線上を運動する点の位置の変化量や道				

2 学 期		のりを、定積分を用いて求めることができる。 ○座標平面上の点が動く道のりを、定積分を用いて求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○$\int (a^2 - x^2)$の定積分を、円の面積と捉えて計算することができる。 ○面積を求めるとき、図形の対称性に着目して、効率的に計算できる。 ○球を円の回転体と捉え、球の体積を円$x^2 + y^2 = 1$で囲まれた部分をx軸の周りに1回転させた立体の体積として求めることができる。 ○面積や体積と同様な考え方で、曲線の長さが定積分で求められることを理解している。 ○座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道のりは、その点が描く曲線の長さに等しいことを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○グラフの上下関係、積分範囲などを図にかいて考察して、種々の曲線や直線で囲まれた部分の面積を求めようとする。 ○体積$V(x)$が断面積$S(x)$の1つの不定積分であることに興味、関心をもち、考察しようとする。 ○回転体の体積を、定積分を用いて求めようとする。 ○一般の回転体の体積に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ○曲線の方程式が媒介変数表示や、$y = f(x)$の形で与えられているとき、曲線の長さを、定積分を用いて求めようとする。 ○数直線上を運動する点の座標、位置の変化量、道のりの違いを理解し、定積分を用いて求めようとする。	○	○	○	25
	定期考査		○	○		1
	総合問題演習	○既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【知識・技能】 ○問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【思考・判断・表現】 ○問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	22
3 学 期	総合問題演習	○既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【知識・技能】 ○問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【思考・判断・表現】 ○問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	27
						合計 117

教科 数学科 の目標：
【知識及び技能】数学ⅠⅡ及びA B Cの大学入学共通テストレベルの問題について理解させ、基礎的な知識の習得と技能
【思考力、判断力、表現力等】の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の
【学びに向かう力、人間性等】よさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
2次曲線、式の計算、1次不等式、集合と命題、2次関数、三角比、データの分析、場合の数、確率、平面図形、数列、ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	2次曲線、数学Ⅰの各単元で扱う、大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、グラフの有用性、図形や図形の構造、データの散らばりや相関に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、大学入学共通テスト形式の表現を養う。	大学入学共通テストレベルの問題演習を通じて、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2次曲線、式の計算、1次不等式、集合と命題、2次関数、三角比、データの分析 ○幾何学的な定義に基づいて導き出された2次曲線の方程式とその概形について考察し、2次曲線の基本的な性質を理解できるようにするとともに、解析幾何学的な方法についての理解を深める。 ○2次曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を理解を深める。 総合問題演習	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ○2次曲線の性質を理解し、グラフであることを理解している。 ○放物線の方程式から、焦点、準線が求められる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある放物線の方程式を理解している。 ○楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○楕円の方程式から、焦点などが求められる。また、条件から楕円の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある楕円の方程式を理解している。 ○双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○双曲線の方程式から、頂点、焦点、漸近線が求められる。また、条件から双曲線の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある双曲線の方程式を理解している。 ○曲線 $P(x-p, y-q)=0$ は、曲線 $P(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。 ○ x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を求めることができる。 ○2次曲線と直線の交点や弦の中点を2次方程式の実数解を利用して求められる。 ○2次曲線の接線の方程式を、2次方程式の解（重解）を利用して求められる。 ○2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。 ○曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 ○放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求められる。 ○2次曲線や円を、媒介変数を用いて表すことができる。 ○媒介変数表示の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求められる。 【思考・判断・表現】 ○軌跡の考え方を利用して、放物線の方程式を導くことができる。 ○2次関数のグラフとしての放物線と2次曲線としての放物線を関連付けてとらえられる。 ○放物線の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察することができる。 ○軌跡の考え方を利用して、楕円の方程式を導くことができる。 ○楕円の焦点がx軸上にあるか、y軸上にある	○	○	○	20

		か、その方程式から考察ができる。 ○軌跡の考えを利用して、双曲線の方程式を導くことができる。 ○双曲線の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察ができる。 ○2次曲線を、円錐を平面で切った切り口の曲線として捉えられる。 ○2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察することができる。 ○放物線の接線や焦点の性質について、式を使って考察することができる。 ○媒介変数表示の曲線の平行移動を一般的に取り扱うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。 ○条件を満たす軌跡について、条件を変えたときに軌跡がどのように変わるか検討しようとする。 ○2次曲線が円錐と平面との交線であることに興味、関心をもち、考察しようとする。 ○直角双曲線$xy=1$に関心をもち、考察しようとする。 ○2次曲線と直線の位置関係について、2次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。 ○2次曲線が定点と定直線との距離の比の関係で定められることに関心を示し、それについて考察しようとする。 ○曲線の方程式の媒介変数表示に興味、関心をもち、媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。 ○平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味、関心をもつ。 ○数学Ⅰの各単元である式の計算、1次不等式、集合と命題、2次関数、三角比、データの分析の有用性について興味、関心をもつ。				
定期考査			○	○		1
数学Ⅰ、数学Ⅱ、 数学A、数学B、 数学C ○数学ⅠA、数学Ⅱ・B・Cの基本的な内容を理解できるようにするとともに、大学入試共通テストの問題についての理解を深める。 総合問題演習	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ○式を整理して、因数分解の公式を理解している。 ○1次不等式およびその解について理解している。 ○集合とその表し方、命題と条件や証明について理解している。 ○2次関数とそのグラフの関係について理解している。 ○2次関数のグラフの平行移動、対称移動を理解している。 ○2次方程式の解と2次方程式、2次不等式との関係を理解している。 ○1つの鋭角θに対して定まる「三角比」正弦定理、余弦定理を理解している。 ○式と証明、複素数と方程式、図形を利用した軌跡と領域を通して、図形と方程式を理解している。 ○三角関数、指数関数、対数関数を理解している。 ○微分法と積分法を理解している。 ○場合の数、順列・組み合わせと確率を理解している。 ○平面図形と空間図形とその性質を理解している。 ○整数の性質を理解している。 ○平面ベクトル、空間ベクトルと図形を理解している。 ○データの分析、確率分布を理解している。 【思考・判断・表現】 ○数学ⅠA、数学Ⅱ・B・Cの基本的な内容を表現し、考察することができるようにするとともに、大学入試共通テストの問題について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数学ⅠA、数学Ⅱ・B・Cの内容における、大学入試共通テストの問題についての考察を深めることに興味、関心をもつ。	○	○	○	20

	定期考査			○	○		1
2 学 期	総合問題演習 既習事項の大学入試共通テストの問題に取り組む	【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に沿って表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】数学ⅠA、数学Ⅱ・B・Cの内容における、大学入試共通テストの問題についての考察を深めることに興味、関心をもつ。	○	○	○		24
	定期考査		○	○			1
	総合問題演習 既習事項の大学入試共通テストの模試形式の問題に取り組む	【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に沿って表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】数学ⅠA、数学Ⅱ・B・Cの内容における、大学入試共通テストの問題についての考察を深めることに興味、関心をもつ。	○	○	○		22
	定期考査		○	○			1
3 学 期	総合問題演習 既習事項の大学入試共通テストの模試形式の問題に取り組む	【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に沿って表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】数学ⅠA、数学Ⅱ・B・Cの内容における、大学入試共通テストの問題についての考察を深めることに興味、関心をもつ。	○	○	○		27

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 数学科 科目 数学Cγ

教科：数学科

科目：数学Cγ

単位数：3 単位

対象学年組：第3学年 A組～C組

使用教科書：（数研出版 数学C

）

教科 数学科

の目標：

【知識及び技能】平面上の曲線と積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫

【思考力、判断力、表現力等】について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに

【学びに向かう力、人間性等】に、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学Cγ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
平面上の曲線と積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
式と曲線 ○幾何学的な定義に基づいて導き出された2次曲線の方程式とその概形について考察し、2次曲線の基本的な性質を理解できるようにするとともに、解析幾何学的方法についての理解を深める。 ○曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を理解できるようにし、それらを具体的な事象の考察に活用する力を養う。 総合問題演習	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ○放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ○放物線の方程式から、焦点、準線が求められる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある放物線の方程式を理解している。 ○楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○楕円の方程式から、焦点などが求められる。また、条件から楕円の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある楕円の方程式を理解している。 ○双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○双曲線の方程式から、頂点、焦点、漸近線が求められる。また、条件から双曲線の方程式を求めることができる。 ○焦点がy軸上にある双曲線の方程式を理解している。 ○曲線$F(x-p, y-q)=0$は、曲線$F(x, y)=0$を平行移動したものであることを理解している。 ○x, yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を求めることができる。 ○2次曲線と直線の交点や弦の中点を2次方程式の実数解を利用して求められる。 ○2次曲線の接線の方程式を、2次方程式の解（重解）を利用して求められる。 ○2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。 ○楕円や双曲線の方程式を、離心率eをもとに求められる。 ○曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 ○放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求められる。 ○2次曲線や円を、媒介変数を用いて表すことができる。 ○媒介変数表示の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○軌跡の考え方を利用して、放物線の方程式を導くことができる。 ○2次関数のグラフとしての放物線と2次曲線としての放物線を関連付けてとらえられる。 ○放物線の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察することができる。 ○軌跡の考え方を利用して、楕円の方程式を導くことができる。 ○楕円の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察ができる。 ○軌跡の考え方を利用して、双曲線の方程式を導くことができる。 ○双曲線の焦点がx軸上にあるか、y軸上にあるか、その方程式から考察ができる。 ○2次曲線を、円錐を平面で切った切り口の曲線として捉えられる。 ○複雑な方程式で表された2次曲線を、平行移動を利用して考察することができる。 ○2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察することができる。 ○放物線の接線や焦点の性質について、式を使って考察することができる。 ○放物線、楕円、双曲線を離心率eと1との大小関係で統一的に取り扱うことができる。 ○媒介変数表示の曲線の平行移動を一般的に取り扱うことができる。 ○x, yについての方程式では表しにくい曲線を、媒介変数表示を用いて考察することができる。	○	○	○	20

1 学 期		ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○2次曲線を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。 ○条件を満たす軌跡について、条件を変えたときに軌跡がどのように変わるか検討しようとする。 ○2次曲線が円錐と平面との交線であることに興味、関心をもち、考察しようとする。 ○直角双曲線$xy=1$に関心をもち、考察しようとする。 ○2次曲線と直線の位置関係について、2次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。 ○2次曲線の焦点の性質に関心をもち、考察しようとする。 ○2次曲線（楕円、放物線、双曲線）の焦点の性質について進んで考察しようとする。 ○2次曲線が定点と定直線との距離の比の関係で定められることに関心を示し、それについて考察しようとする。 ○曲線の方程式の媒介変数表示に興味、関心をもち、媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。 ○サイクロイドなど媒介変数表示でないと表しにくい曲線を進んで考察しようとする。 ○平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味、関心をもち、 ○2次曲線を極方程式で表すと、離心率を用いて簡潔に表されることに興味、関心をもち、考察しようとする。				
定期考査			○	○		1
式と曲線 ○幾何学的な定義に基づいて導き出された2次曲線の方程式とその概形について考察し、2次曲線の基本的な性質を理解できるようにするとともに、解析幾何学的方法についての理解を深める。 ○曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を理解できるようにし、それらを具体的な事象の考察に活用する力を養う。 総合問題演習	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ○極座標で表された点の位置を表示できる。 ○点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○円や直線を極方程式で表すことができる。 ○曲線の方程式について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○2次曲線を、離心率eを用いて極方程式で表すことができる。 ○いろいろな曲線をコンピュータで描画し、その性質を考察できる。 【思考・判断・表現】 ○曲線を極座標を用いて表すと簡潔に表せ、その性質の考察が容易になることがあることに気づく。 ○2次曲線の極座標表示を、離心率eを用いて統一的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味、関心をもち、 ○2次曲線を極方程式で表すと、離心率を用いて簡潔に表されることに興味、関心をもち、考察しようとする。 ○媒介変数表示や極方程式で表された曲線をコンピュータで描き、それらを考察することに興味、関心をもち、	○	○	○	20
定期考査			○	○		1

2 学 期	総合問題演習 既習事項の基礎・応用の問題に取り組む	【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。	○	○	○	24
	定期考査		○	○		1
	総合問題演習 大学入試問題による演習	【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。	○	○	○	22
	定期考査		○	○		1
3 学 期	総合問題演習 大学入試問題による演習	【知識・技能】既習事項を確認し、問題の解法へつなげることができる。 【思考・判断・表現】問題の解法を、解法の記述の手法に則り記述することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】問題の解法を、より洗練された記述にしようとする。	○	○	○	27
						合計 117

理科 科目 物理基礎演習

教 科：理科

科目：物理基礎演習

單位數： 1 單位

对象学年組：第 3 学年

使用教科書：（東京書籍 物理基礎、第一学習社 セミナ一物理基礎

教科 理科

の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎

の目標：

文系志望の生徒で共通テスト「物理基礎」の受験希望者を対象とする。1学年で学習した物理基礎を復習するとともに、実践問題演習を通して共通テストに対応できる力を養っていく。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理の原理や法則を正しく理解し、基本的な物理公式を用いた問いが正しく解ける。	物理的な事象から原理や法則を説明でき、実験などで科学的に考察し表現できる。	実験を見通しをもって取り組み、実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連付けられることができる。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
1 学 期	分野別の基礎基本の確認から応用方まで定着させる。 エネルギーとその利用について、基礎基本の確認から、世界全体が抱える問題等を理解させる。	力学、仕事、熱エネルギー、波動 確認問題 エネルギーとその利用 確認問題	【知識及び技能】 ・物理の原理や法則を正しく理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。	○	○	○	5
	定期考査			○	○	○	1
	実験問題の結果から、物理基礎の各分野についての自分の達成度を確認させ、不得意分野を整理し、その対策を立てさせる。	全分野 実験問題	【知識及び技能】 ・基本的な物理公式を用いた問いが正しく解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理公式を説明できる。 ・問題を見だし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習ないように関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	実験問題の結果から、1学期の不得意分野が、どう改善されたか確認させ、その結果に応じた対応策を立てさせる。また、物理基礎全分野での実力向上の度合いを確認させ、その後の学習対策を図らせる。	全分野 実験問題	【知識及び技能】 ・基本的な物理公式を用いた問いが正しく解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理公式を説明できる。 ・問題を見だし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習ないように関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
	実験問題の結果から、物理基礎全分野での実力向上の度合いを確認させ、その後の学習対策を図らせる。	全分野 実験問題	【知識及び技能】 ・基本的な物理公式を用いた問いが正しく解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理公式を説明できる。 ・問題を見だし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習ないように関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。				7
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	実験問題を通して、物理基礎全分野の総整理を図らせる。	全分野 実験問題	【知識及び技能】 ・基本的な物理公式を用いた問いが正しく解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理公式を説明できる。 ・問題を見だし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習ないように関連づけることができる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。				8
	定期考査						1
							合計
							39

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科

理科 科目 理系物理

教科：理科

科目：

理系物理

単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年

使用教科書：（ 第一学習社 物理

）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理

の目標：

物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理的な事物・現象に対する探究心を高め、学習内容の原理や法則を正しく理解している。安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。	物理基礎で身につけた知識・技能をもとに、物理的な事象から共通点や相違点を見つけ、文字や式で自分の考えを表現できる。	実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。物理基礎で得た知識・技能をもとに、実験を見直しをもって取り組んでいる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・電流の交流分野を理解するとともに、それらを日常生活や科学技術と関連付けて考察する。 ・波の特徴を基本式から理解する。 ・ドップラー効果の原理と公式を自ら導出する方法を身につける。 ・光の干渉の公式を理解し、身近な現象に関連づける。	・電磁気（交流） ・波動（基本式・ドップラー） ・音 ・光	【知識及び技能】 ・電磁気・波動の交流公式を書ける。 ・学習内容の原理や法則を正しく理解している。 ・安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 ・ドップラー効果の公式を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることできる。	○	○	○	27
	定期考査			○	○	○	1
	・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式を理解する。体積・圧力・気道をボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式から求めることができる。 ・光電効果を理解する。また、実験を通して、光子がどのように移動するのかをイメージできるようにする。	・熱 ・原子	【知識・技能】 ・ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式を用いて、圧力や体積の計算ができる。 ・光電効果の説明ができる。 ・光電効果が起こる原因を説明できる。 ・安全に留意し、正しい操作で実験を行うことができる。 【思考・判断・表現】 ・物理的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることできる。	○	○	○	27
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	・水素の原子半径の概念を理解し、自ら基本式からボーア半径を式変形で導くことができる。 ・質量欠損や核分裂についてのイメージを自分の言葉で説明できる。 ・国立大学、私立大学の類出の入試問題を解答する練習を行う。 ・共通テストの過去問から類出の問題を用いて、解答する練習を行う。	・原子 ・問題演習	【知識及び技能】 ・量子条件と振動数条件からボーア半径を導ける。 ・質量欠損や核分裂についてイメージを持てる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、物理的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることできる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。	○	○	○	31
	定期考査			○	○	○	1
	・国立大学、私立大学の類出の入試問題を解答する練習を行う。 ・共通テストの過去問から類出の問題を用いて、解答する練習を行う。	大学入試問題演習	【知識及び技能】 ・物理基礎、物理で学んだ反応や現象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・入試問題を物理基礎や物理で学んだ知識をもとに解答しようとする。 ・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることできる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。				31
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	・共通テストの過去問から類出の問題を用いて、解答する練習を行う。 ・国立大学、私立大学の類出の入試問題を解答する練習を行う。	共通試験対策演習 二次試験対策演習	【知識及び技能】 ・基本的な物理公式を用いた問いが正しく解ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物理公式を説明できる。 ・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることできる。 ・実験を見直しをもって取り組んでいる。				36
	定期考査						0
							合計
							156

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学基礎演習

教科：理科 科目：化学基礎演習 単位数：1 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～C組

使用教科書：（数研出版「チェック&演習 化学基礎」・啓林館「化学基礎」）

- 教科 理科 の目標：
- 【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎演習 の目標：

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、学習内容の原理や法則を正しく理解している。	化学的な事象から共通点や相違点を見つけ、原理や法則を説明できる。	・見通しをもって問題演習に取り組んでいる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
1 学 期	化学と人間生活との関わり、および、化学が人間生活を支えていることを理解することができる。 物質の構成粒子について理解し、問題演習に取り組むことができる。 化学結合について理解し、問題演習に取り組むことが出来る。 物質と化学反応式について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸と塩基について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸化還元反応について理解し、問題演習に取り組むことができる。	・化学基礎の全範囲	【知識及び技能】 ・化学基礎で学んだ反応や現象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思考・判断の過程を化学反応式を使うなどして表現しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見通しをもって問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	化学と人間生活との関わり、および、化学が人間生活を支えていることを理解することができる。 物質の構成粒子について理解し、問題演習に取り組むことができる。 化学結合について理解し、問題演習に取り組むことが出来る。 物質と化学反応式について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸と塩基について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸化還元反応について理解し、問題演習に取り組むことができる。	・化学基礎の全範囲	【知識及び技能】 ・化学基礎で学んだ反応や現象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思考・判断の過程を化学反応式を使うなどして表現しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見通しをもって問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学 期	化学と人間生活との関わり、および、化学が人間生活を支えていることを理解することができる。 物質の構成粒子について理解し、問題演習に取り組むことができる。 化学結合について理解し、問題演習に取り組むことが出来る。 物質と化学反応式について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸と塩基について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸化還元反応について理解し、問題演習に取り組むことができる。	・化学基礎の全範囲	【知識及び技能】 ・化学基礎で学んだ反応や現象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思考・判断の過程を化学反応式を使うなどして表現しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見通しをもって問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	化学と人間生活との関わり、および、化学が人間生活を支えていることを理解することができる。 物質の構成粒子について理解し、問題演習に取り組むことができる。 化学結合について理解し、問題演習に取り組むことが出来る。 物質と化学反応式について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸と塩基について理解し、問題演習に取り組むことができる。 酸化還元反応について理解し、問題演習に取り組むことができる。	・化学基礎の全範囲	【知識及び技能】 ・化学基礎で学んだ反応や現象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思考・判断の過程を化学反応式を使うなどして表現しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見通しをもって問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・共通テストの過去問から抽出の問題を用いて、解答する練習を行う。	・化学基礎の全範囲	【知識及び技能】 ・化学基礎で学んだ反応や現象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思考・判断の過程を化学反応式を使うなどして表現しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・見通しをもって問題演習に取り組んでいる。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		
	合計						39

対象学年組：第 3 学年 B 組～C 組

使用教科書：（東京書籍「生物基礎」

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するするために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などの結果を正しく記述し、事象の解釈と考察を行うことによって科学的に探究する能力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物や現象に興味を持ち、科学的な思考をもって主体的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎演習

の目標・

1学年で学んだ生物基礎の知識をもとに、生命現象についての発展的・応用的な課題に取り組み、科学的思考に基づき見通しを持って問題解決ができる能力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
1学年で学んだ内容について全体を把握し、分野ごとの基本的な事柄とことばの意味を理解する。	実験の方法と結果を正しく解釈し、結果の予測と結果の考察をする力を身に付ける。	問題演習に取り組んで正答を確認し、正答の根拠を正しく認識する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	【知識及び技能】 - 生物は共通性と多様性を併せ持つ存在であることを理解し、具体的な事象とこれらの関連性を見出す能力を身に付ける。 - 物質代謝とエネルギー代謝を理解し、生物の代謝を解明した科学的方法や技術を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 実験・実習の結果を正しく記録する事を通して表現力を養い、結果を深く考察する能力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物の特徴に関する事象・現象を具体的に上げ、科学的に分析しようとする態度を養う。	生物の特徴 - 生物の多様性と共通性 - 細胞の特徴 - 生態とATP - 生体内の化学反応 - 呼吸と光合成	【知識及び技能】 - 生物の特徴について基本的な事柄や用語の意味を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 - 実験の結果を正しく解釈し、結果が示す意味を正しく読み取ることが出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 見直しをもって問題演習に取り組めたか。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 - 体細胞分裂の過程における染色体とDNAの関係について理解しているか。 - DNAの遺伝情報とタンパク質の関係を理解し、塩基配列をペプチドに変換する事ができる。 - 神経系と内分泌系による体内の恒常性維持の仕組みを理解し、体内環境を整える意味や方法を考える。 【思考力、判断力、表現力等】 実験・実習の結果を正しく記録する事を通して表現力を養い、結果を深く考察する能力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 遺伝子とその働きとヒトの体の調節に関する事象・現象を具体的に上げ、科学的に分析しようとする態度を養う。	遺伝子とその働き - DNAの構造と複製 - DNAのタンパク合成 - 細胞の分化と遺伝子 ヒトの体の調節 - 神経系による情報伝達 - ホルモンによる情報伝達	【知識及び技能】 - 遺伝子とその働きとヒトの体の調節について基本的な事柄や用語の意味を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 - 実験の結果を正しく解釈し、結果が示す意味を正しく読み取ることが出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 見直しをもって問題演習に取り組めたか。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学期	【知識及び技能】 - 神経系と内分泌系による体内の恒常性維持の仕組みを理解し、体内環境を整える意味や方法を考える。 - 自然免疫と適応免疫の仕組みを理解し、免疫に関する実験の結果を正しく読み取り考察することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実験・実習の結果を正しく記録する事を通して表現力を養い、結果を深く考察する能力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 ヒトの体の調節に関する事象・現象を具体的に上げ、科学的に分析しようとする態度を養う。	ヒトの体の調節 - 血糖濃度の調節と体温の調節 - 免疫のしくみ - 免疫記憶 - 免疫と様々な疾患	【知識及び技能】 - ヒトの体の調節について基本的な事柄や用語の意味を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 - 実験の結果を正しく解釈し、結果が示す意味を正しく読み取ることが出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 見直しをもって問題演習に取り組めたか。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 生態系の概念を理解し、生態系のバランスと人為的攪乱に関連付けて生態系保全の必要性を表現できる。 【思考力、判断力、表現力等】 実験・実習の結果を正しく記録する事を通して表現力を養い、結果を深く考察する能力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物の多様性と生態系に関する事象・現象を具体的に上げ、科学的に分析しようとする態度を養う。	生物の多様性と生態系 - 植生とその環境 - 植生の遷移 - 遷移とバイオーム - 生態系における生物多様性 - 生態系における生物間の関係 - 生態系と攪乱 - 生態系の保全	【知識及び技能】 - 生物の多様性と生態系について基本的な事柄や用語の意味を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 - 実験の結果を正しく解釈し、結果が示す意味を正しく読み取ることが出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 見直しをもって問題演習に取り組めたか。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学期	共通テストの過去問から類出の問題を用いて、解答する練習を行う。	生物基礎の全範囲	【知識及び技能】 - 生物基礎で学んだ事象を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 - 思考・判断の力が正しく行われ正答出来たか。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 見直しをもって問題演習に取り組めたか。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		
							合計

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：3 単位

対象学年組：第3学年 A組～C組

使用教科書：（701現代高等保健体育（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解する等とともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
運動の合理的、計画的な実務を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	体育理解 【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に主体的に取り組む。	・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ	【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 【思考・判断・表現】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に主体的に取り組んだ。	○	○	○	2	
	前期2時間授業 下記4項目より1項目を選択 ・バスケットボール（女子） ・バスケットボール（男子） ・卓球 ・ソフトボール	通年1時間授業 下記4項目より1項目を選択 ・硬式テニス ・バドミントン ・フライングディスク ・サッカー	球技・ゴール型（バスケットボール） 【知識及び技能】 パス、ドリブルなどのボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入し、シュートにつなげることができ、システムを理解し、集団的技術としてチームで連携した防御ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、また互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。	【知識及び技能】 パス、ドリブルなどのボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入し、シュートにつなげることができ、システムを理解し、集団的技術としてチームで連携した防御ができた。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 バスケットボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、また互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができた。	○	○	○	
	体づくり運動	球技・ネット型（テニス） 【知識及び技能】 適切なラケット操作とボールコントロールによってショットラリー、グラウンドストロークのラリーを行うことができる。またゲームの進め方と基本のルールを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 同じグループの仲間や自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 テニスを主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。	【知識及び技能】 適切なラケット操作とボールコントロールを身に付け、ショットラリー、グラウンドストロークのラリーを行うことができる。ゲームの進め方や基本のルールを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 同じグループの仲間や自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 テニスを主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができた。	○	○	○		
		球技・ゴール型（サッカー） 【知識及び技能】 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻撃をする。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ラグビーに主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。	【知識及び技能】 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻撃をすることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ラグビーに主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとした、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができた。	○	○	○	40	
		球技・ネット型（卓球） 【知識及び技能】 適切なラケット操作とボールコントロールによってラリーを行うことができる。またゲームの進め方と基本のルールを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 同じグループの仲間や自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 卓球に主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができる。	【知識及び技能】 適切なラケット操作とボールコントロールを身に付け、ラリーを行うことができた。ゲームの進め方や基本のルールを理解することができた。 【思考力、判断力、表現力等】 同じグループの仲間や自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 テニスを主体的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや健康・安全を確保することができた。	○	○	○		

[illegible]

單位數： 3 單位

使用教科書：(ELEMENT III. Cutting Edge(Orange), Reading Core, Stock 4500

の目標・

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に発言したり伝え合ったりすることができるよう。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自覚的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅢ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「知識」 「英語の特徴やきまりに関する事項」を理解する。 「技能」 ・「聞くこと」「読むこと」 話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 ・「話すこと【やり取り】」「話すこと【発表】」「書くこと」 情報や考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝え合ったりするために必要な技能を身に付ける。	・「聞くこと」「読むこと」 必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えられる。 ・「話すこと【やり取り】」「話すこと【発表】」「書くこと」 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりできる。	・「聞くこと」「読むこと」 話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報を読み取ったり読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えることができる。 ・「話すこと【やり取り】」「話すこと【発表】」「書くこと」 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりできる。 ・言語活動への取組に表れて見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えることができる。

[illegible]

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅲ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅲ 単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

使用教科書：（ EARTHRISE III, Write to the Point, Clues to Reading, 共通テストリスニング分野別10min., Vintage ）

- 教科 外国語 の目標：
- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 論理・表現Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「知識」 「英語の特徴やきまりに関する事項」を理解する。 「技能」 ・「聞くこと」「読むこと」 話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 ・「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」 情報や考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝え合ったりするために必要な技能を身に付ける。	・「聞くこと」「読むこと」 必要な情報を読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えられる。 ・「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりできる。	・「聞くこと」「読むこと」 話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報を聞き取ったり読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えることができる。 ・「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりできる。 ・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話（や）	話（発）	書					
1 学 期	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。	・ EARTHRISE Lesson 1 ～ 3 ・ Write to the Point 【B問題】 Lesson 1 ～ 5 ・ Clues to Reading Lesson 1 ～ 4 ・ 一人1台端末の活用	○	○	○		○	① 定期考査：中間・期末 ② Write to the Point 授業プリント ③ Clues to Reading 授業プリント ④ Vintage 小テスト ⑤ Essay Writing ⑥ その他、提出物等	○	○	○	13
	定期考査			○			○		○	○		1
	【知識及び技能】 各レッスンのテーマに関する語彙を理解する。英語らしい発音を理解し、聞き取る。 【思考力、判断力、表現力等】 全体のパラグラフ構成を見通しながら、本文の内容が理解できる。また本文に関連した英作文が書けるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にコミュニケーションを図る態度が身につく。	・ EARTHRISE Lesson 4 ～ 6 ・ Write to the Point 【B問題】 Lesson 6 ～ 9 ・ Clues to Reading Lesson 6 ～ 8 ・ 一人1台端末の活用	○	○	○		○	① 定期考査：中間・期末 ② Write to the Point 授業プリント ③ Clues to Reading 授業プリント ④ Vintage 小テスト ⑤ Essay Writing ⑥ その他、提出物等	○	○	○	13
	定期考査			○			○		○	○		1

[illegible]

[illegible]